

■ 総合計画における成果指標

1 目標と指標

総合計画には、施策を進めた結果、「めざすまちの姿」の実現にどのくらい近づけたのかを測定するため、個別目標ごとに数値目標を指標として設けています。

この指標を定期的に検証していくことで、行政だけではなく、区民をはじめNPO*、事業者など多くのまちづくりの主体の方々が、目標の達成状況を検証し、その結果を踏まえ、適時、施策等の見直しを行います。

2 活動指標と成果指標

行政活動の実績や成果を表すもの、それが「指標」です。指標には「活動指標（アウトプット指標）」と「成果指標（アウトカム指標）」があります。

「活動指標」は、事務事業として何をどれだけ実施したかを示すものです。

「成果指標」は、活動の結果、目的に照らしてどのような成果があったかを示すものです。

これまでの行政は、予算の額（インプット）や活動実績（アウトプット）を重視してきましたが、これからは地域の課題・ニーズが解決された状態である「成果」が達成されたかどうか重要です。

成果指標は、施策を進めていった結果、総合計画の個別目標がどの程度達成されたのかを測定する物差しとするために、個別目標を実際に数値で測っていくことが可能な項目に置き換えて示したものです。

3 指標設定の考え方

設定する指標は、事業や活動の結果として生じる状態を示す「成果指標」を原則とします。

また、成果指標は、「個別目標の具体的な成果を示す要素であること」と、「定期的に数値を測ることができること」とし、

- (1) 区民の意識や感じ方に関するもの
例) 子育てが楽しいと感じられる保護者の割合
- (2) 統計的な数値によるもの
例) 保育園の待機児童数

という、主観的な指標と客観的な指標の両者を設定しています。

ただし、成果をイメージできても指標にしづらい場合や指標としてイメージできても実際のデータがない場合など、指標の設定が困難な場合があります。その場合は、「活動指標」を指標とします。

4 成果指標の目標値

目標値は、「個別目標が達成された状態」における達成レベルを数値として設定しました。目標年度は、総合計画の計画期間と同様、平成29年度としています。なお、目標値の設定が現時点では困難な項目については、めざすべき方向性を示しました。

また、都市マスタープランに関連する指標については、平成30年度以降の将来目標も示しています。

5 指標の改善

指標は、行政評価の重要な要素ですが、具体的に何を成果指標とするかは、難しい面があります。行政評価を効果的なものとするためにも、適切な指標の設定は大事なことです。実際の運用結果や第三者評価の実施などを通じて指標の変更や追加を行って指標を改善していきます。